

決算補足説明資料

2026年度 第1四半期 業績概要

注意事項

- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2026年3月1日～2026年5月31日)

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

本日はお忙しい中、当社 決算オンライン説明会にご参加いただきありがとうございます。

それでは、2026年度 第1四半期の業績概要についてご説明いたします。

1ページにお進みください。

➤ 2026年度 第1四半期 実績

- ➔ **売上収益** … 前年同期比+10.6%
 - ・半導体およびデータセンタ関連投資を背景とした需要の拡大により増収
- ➔ **営業利益** … 前年同期比▲19.2%
 - ・経営基盤の強化を目的とした基幹システムの移行影響に加え、間接費増加および欧州の事業構造改革費用の計上により減益
- ➔ **税引前利益** … 前年同期比▲13.6%
親会社の所有者に帰属する当期利益 … 前年同期比▲21.7%
 - ・営業利益の減少により減益
- ➔ **第1四半期 受注** … 前年同期比+29%・前四半期比+8%
 - ・半導体およびデータセンタ関連の需要の拡大を背景とした受注増などにより前年同期比・前四半期比ともに増加

➤ 2026年度 通期 見通し

- ➔ **売上収益:5,800億円、営業利益:600億円**
 - ・足元の受注は堅調に推移しているものの、経営基盤の強化を目的とした基幹システム移行後の定着状況を慎重に見極めるため、現時点では通期見通しを据え置く
 - ・想定為替レート（2026年6月1日～2027年2月28日）は4月10日公表時から変更なし
 - ・26年度の年間配当予想も4月10日公表時から変更なし（一株当たり年間配当72円）

当決算におけるサマリーです。

詳しくはこの後にご説明いたします。

それでは、5ページにお進みください。

1. 2026年度 第1四半期 連結業績

- 2026年度 第1四半期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2026年度 第1四半期における取組み
- 【トピック1】AIロボティクス領域の拡大に向けた取組み
- 【トピック2】データセンタ関連投資による需要拡大

2. 2026年度 通期 連結業績見通し

- 2026年度 通期 見通し

3. 参考資料

- 設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 売上収益・営業利益 四半期推移
- 直近四半期営業利益増減要因分析
- 売上収益 四半期推移
- 四半期受注推移
- 参考定量情報

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ ACサーボドライブ、コントローラ
- ・ リニアモータ
- ・ インバータ
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・ PMモータ

など



YRMコントローラ
「YRM1030」



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - ハンドリング用途向け
- ・ AIロボット、人協働ロボット
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット

など



システム エンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電気システム
- ・ 港湾荷役用電気システム
- ・ 上下水道用電気システム

など



その他

- ・ 物流サービス

など

1. 2026年度 第1四半期 連結業績

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

- ・売上収益は、半導体およびデータセンタ関連投資を背景とした需要の拡大などにより増加
- ・営業利益は、経営基盤の強化を目的とした基幹システムの移行影響を大きく受けたことに加え、間接費の増加や欧州における事業構造改革費用の計上などにより減少

	2026年度	2025年度	前年同期比	
	1Q 実績	1Q 実績	増減額	増減率
売上収益	1,390億円	1,256億円	+133億円	+10.6%
営業利益	85億円	105億円	▲20億円	▲19.2%
税引前利益	85億円	98億円	▲13億円	▲13.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	54億円	70億円	▲15億円	▲21.7%

第1四半期の実績です。

当期の経営環境は、中東情勢をはじめとした地政学的リスクなどがある中、AI関連投資にけん引された半導体およびデータセンタを中心とした設備投資需要は好調に推移しました。

このような中、当社グループの業績については、経営基盤の強化を目的とした基幹システムの移行にともなう生産への影響を受けたものの、売上収益は、半導体およびデータセンタ関連投資を背景とした需要の拡大などにより前年同期比で増加しました。

営業利益については、基幹システムの移行影響に加え、間接費の増加や欧州における事業構造改革費用などの計上などにより前年同期比で減少しました。

売上収益は前年同期比10.6%増の1,390億円、営業利益は19.2%減の85億円、税引前利益は13.6%減の85億円、四半期利益は21.7%減の54億円です。

それでは、次の6ページにお進みください。

2026年度 第1四半期 実績（セグメント別）

- ・売上収益は、モーションコントロールがけん引し、増加
- ・営業利益は、モーションコントロールの増益が寄与もロボットの減益により、減少

	2026年度 1Q		2025年度 1Q		前 年 同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
(単位：億円)						
売上収益	1,390		1,256		+133	+10.6%
モーションコントロール	676		557		+120	+21.5%
ロボット	567		556		+11	+2.0%
システムエンジニアリング	98		93		+5	+5.9%
その他	48		51		▲3	▲5.5%
営業利益	85	6.1%	105	8.4%	▲20	▲19.2%
モーションコントロール	76	11.2%	50	9.1%	+25	+50.1%
ロボット	9	1.6%	50	9.0%	▲41	▲82.3%
システムエンジニアリング	19	19.6%	10	11.1%	+9	+86.9%
その他	2	4.0%	4	7.5%	▲2	▲49.4%
消去または全社	▲21	-	▲10	-	▲11	-

売上収益、営業利益のセグメント別内訳です。

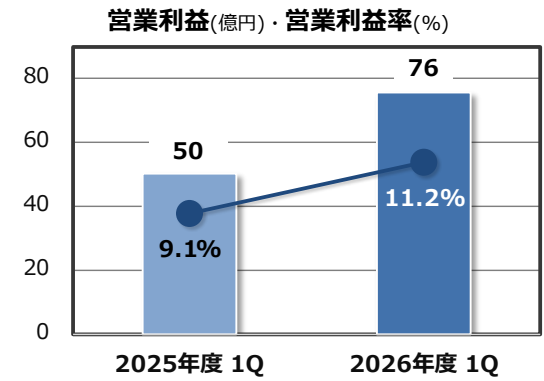
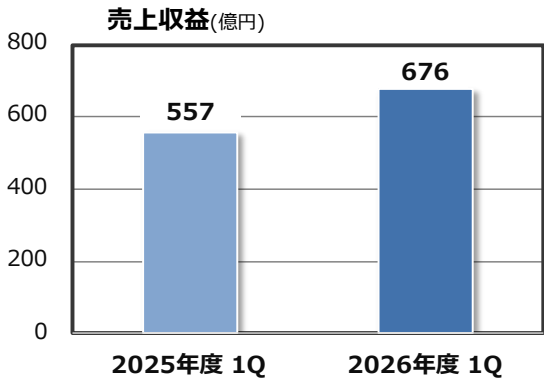
全社の売上収益は、モーションコントロールがけん引したことで前年同期に比べ増加しました。

営業利益は、ロボットの減益により前年同期に比べ減少しました。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の7ページへお進み下さい。

主要事業の概要 モーションコントロール



【売上収益】

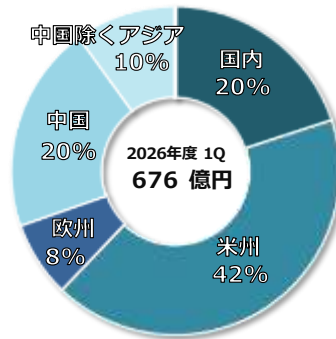
- ACサーボは、主力市場の半導体や電子部品、工作機械関連を中心に販売が伸長し、すべての地域で売上が増加
- インバータは、データセンタ*の建屋空調・サーバ冷却用途向けや半導体製造における真空ポンプ向け、オイル・ガス関連の売上拡大などにより増収

*P16にて詳細説明

【営業利益】

- 基幹システムの移行に伴い影響を受けるも、売上増に伴う利益増により大幅な増益

所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。

売上収益は、前年同期比21.5%増の676億円、
営業利益は50.1%増の76億円となりました。

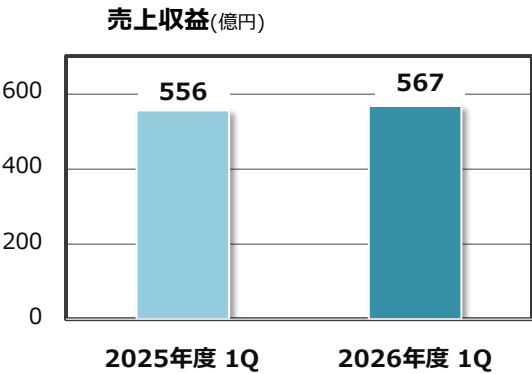
ACサーボは、主力市場である半導体や電子部品、工作機械関連を中心に販売が伸長し、
グローバルのすべての地域で売上が増加しました。

インバータは、データセンタの建屋空調・サーバ冷却用途向けや
半導体製造における真空ポンプ向け、オイル・ガス関連の売上拡大などにより
増収となりました。

利益面については、基幹システムの移行に伴う生産稼働への影響がありましたが、
売上増加に伴う利益増により大幅な増益となり、
営業利益率は11.2%となりました。

それでは、次の8ページへお進み下さい。

主要事業の概要 ロボット

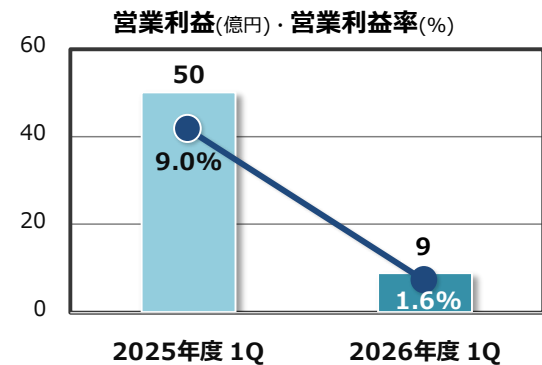


【売上収益】

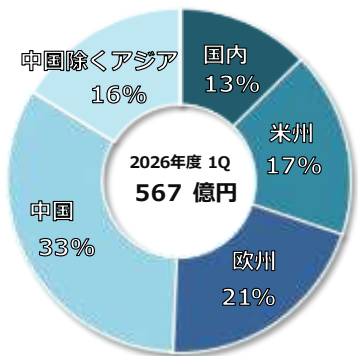
- 日本・欧州が低迷したものの、米州と中国の増収により、前年同期比でほぼ横ばい

【営業利益】

- 基幹システムの移行に伴う生産への影響に加え、欧州における事業構造改革費用の計上などにより、前年同期比で減少



所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

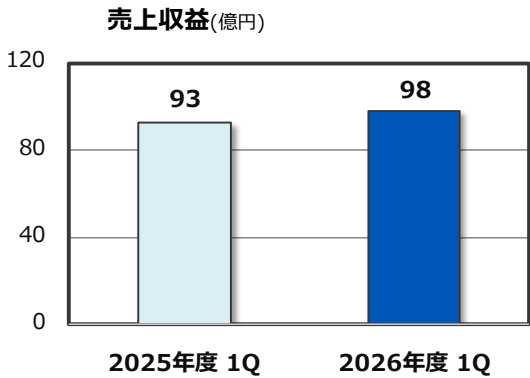
売上収益は、前年同期比2%増の567億円、
営業利益は、82.3%減の9億円となりました。

日本・欧州が低迷したものの、
自動車市場と一般産業向けの販売が堅調に推移した米州・中国の増収により、
売上収益は前年同期比でほぼ横ばいとなりました。

利益面については、基幹システムの移行にともなう生産への影響に加え、
欧州における事業構造改革費用の計上などにより前年同期比で減益となり、
営業利益率は1.6%となりました。

それでは、次の9ページにお進みください。

主要事業の概要 システムエンジニアリング

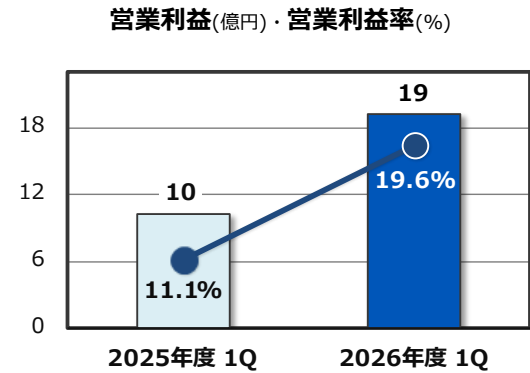


【売上収益】

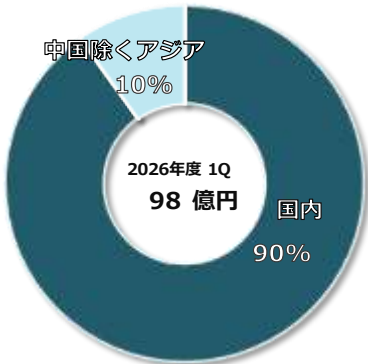
- 上下水道用電気システムおよび港湾クレーン関連の販売が増加し、増収

【営業利益】

- 上下水道用電気システムなど好採算案件の売上増加により増益



所在地別売上収益構成比



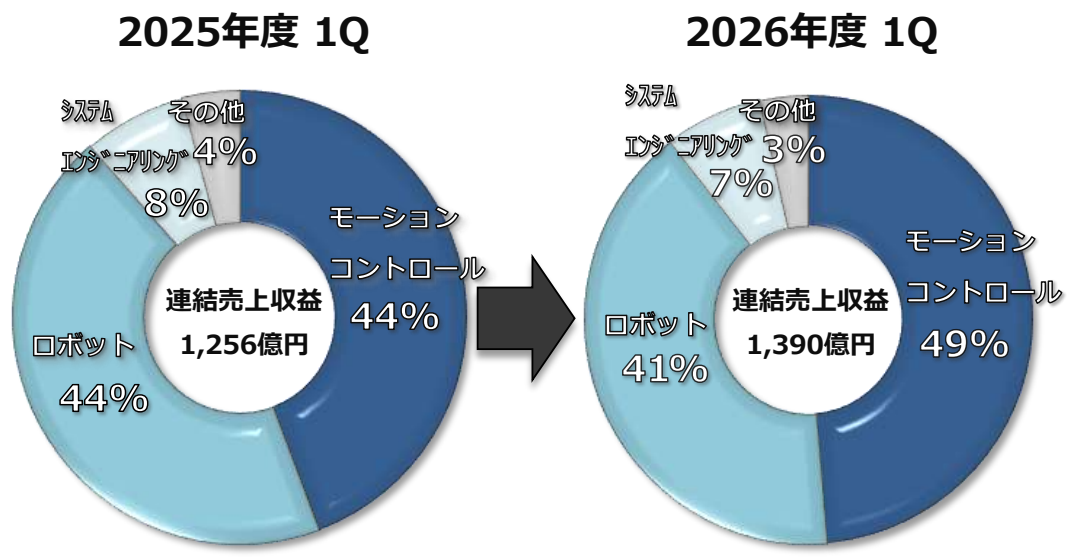
システムエンジニアリングの状況です。

売上収益は、前年同期比5.9%増の98億円、
営業利益は、86.9%増の19億円となりました。

上下水道用電気システムおよび港湾クレーン関連の販売が増加し、
売上収益は前年同期比で増加しました。

利益面については、上下水道用電気システムなどの好採算案件の
売上増加などにより増益となり、
営業利益率は、19.6%となりました。

それでは、次の10ページにお進みください。



セグメント別の売上収益 構成比です。

前年同期と比較すると、モーションコントロールが5ポイント増加した一方、ロボットが3ポイント減少しました。

この結果、モーションコントロールは49%、ロボットは41%となりました。

システムエンジニアリングの構成比は7%となっております。

それでは、次の11ページにお進みください。

所在地別売上収益

・米州・中国・アジアがけん引し、増収

(単位：億円)	2026年度	2025年度	前年同 期 比	
	1Q実績	1Q実績	増減額	増減率
売上収益	1,390	1,256	+133	+10.6%
国内	338	370	▲32	▲8.6%
海外	1,051	886	+165	+18.7%
米州	386	302	+84	+27.8%
欧州	167	170	▲3	▲1.8%
中国	330	271	+59	+21.8%
中国除くアジア	169	143	+26	+17.9%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。
米州・中国・アジアが増収をけん引しました。

地域別の状況ですが、
国内については、半導体・電子部品向けを中心とした需要は引き続き好調に推移し、
一般産業分野においても自動化需要は堅調に推移しました。
一方で、自動車市場では投資判断に慎重な動きが継続しました。

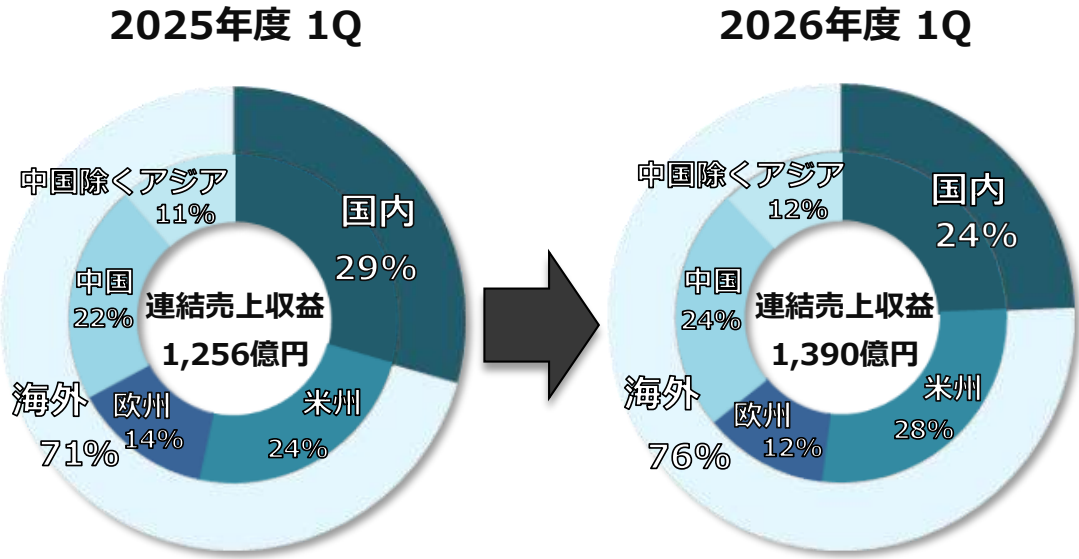
米州では、半導体およびデータセンタ関連需要が引き続き好調に推移し、
太陽光発電用パワーコンディショナの需要も堅調に推移しました。

欧州については、自動車市場における需要は引き続き低調に推移したものの、
製造業全般の需要は底入れし、一般産業分野における自動化需要や
半導体関連の需要に回復が見られました。

中国では、半導体およびデータセンタ関連投資に支えられ需要は幅広く回復基調となり、
一般産業における自動化需要も堅調に推移しました。
また、自動車市場においても設備投資は底堅く推移しました。

中国除くアジアについては、韓国・台湾における半導体関連需要が好調に推移するとともに、
韓国の自動車市場においては、設備投資が底堅く推移しました。
また、インドにおいてインフラ投資にともなう需要の拡大が見られました。

それでは、次の12ページにお進みください。



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

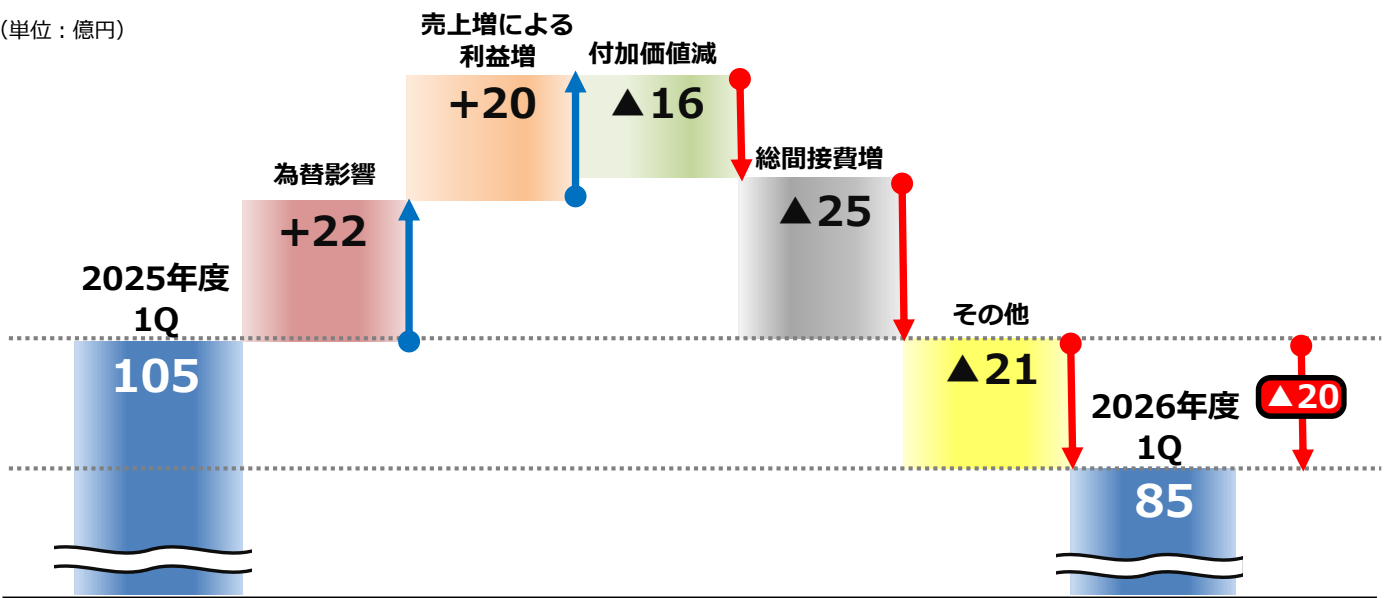
所在地別の売上収益 構成比は、国内が前期から5ポイント減少し、24%に、海外は5ポイント増加し、76%になりました。

海外の内訳として、欧州が2ポイント減少した一方で、米州が4ポイント、中国が2ポイント、アジアが1ポイントそれぞれ増加しました。

それでは、次の13ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2025年度1Q → 2026年度1Q）

(単位：億円)



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 12	+ 38	▲ 5	▲ 18	▲ 2
ロボット	+ 10	▲ 20	▲ 18	▲ 1	▲ 12
システムエンジニアリング	▲ 0	+ 2	+ 9	▲ 3	+ 0
その他	+ 0	▲ 0	▲ 3	▲ 4	▲ 7

営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前年同期の105億円から20億円減少し、85億円となりました。

為替による影響は、各主要通貨が円安に推移し、プラス22億円。

売上増による利益増は、モーションコントロールの販売量増加により、プラス20億円。

付加価値はマイナス16億円。

棚卸評価損の減少がプラスに寄与した一方で、基幹システムの移行に伴う生産への影響などによりマイナスとなりました。

総間接費の増加による影響は、賃金の改善や減価償却費の増加などにより、マイナス25億円。

最後の「その他」はマイナス21億円。

欧州の事業構造改革費用に加え、前年同期に計上したその他収益の剥落が主な要因です。

それでは、次の14ページにお進みください。

新長期経営計画「2035年ビジョン」・中期経営計画「Dash 35」をスタート

- 『技術革新によるMechatronics領域の拡大』を掲げ、
「Dash 35」では『徹底した高収益化とフィジカルAI新市場創出』に注力

フィジカルAI市場の開拓

- MOTOMAN NEXTのソリューションのパッケージ化による横展開に向けた、全社的な販売体制の強化

i³-Mechatronicsの実践拡大

- 生産・物流機能の集約によるスロベニアのロボット拠点の効率化・高度化
- ACサーボとロボットの一貫生産を行うロボット第5工場(福岡県北九州市)の本格稼働開始(7月)
- i³-Mechatronicsコンセプトを実現するコントローラとインバータのラインアップ強化
- 重労働の代替に対応した高可搬質量かつ広い動作領域のロボット販売開始

新メカトロニクス応用領域の事業拡大

- FOOMA JAPAN 2026にて、自律型AIロボットMOTOMAN NEXTを活用した食品生産工程の自動化や生産性の向上を訴求
- ライフサイエンス・医薬品市場向け衛生環境用ロボットの販売開始
(MOTOMAN-HD7・HD8)



YASKAWA Europe Robotics
集約後イメージ



高可搬質量かつ広い動作領域
MOTOMAN-GP215L



多軸制御に対応
MPX1010



Ethernet通信機能を標準搭載
GA501

こちらのページは、今年度からスタートしました、新たな長期経営計画「2035年ビジョン」および中期経営計画「Dash 35」における主な取組みです。

『フィジカルAI市場の開拓』については、自律型AIロボット「MOTOMAN NEXT」で実現したソリューションのパッケージ化による横展開に向けて、全社的に販売体制を強化しています。

『i³-Mechatronicsの実践拡大』については、スロベニアのロボット拠点の効率化・高度化を図りました。

また、需要の変動に左右されない生産体制の実現に向け、日本において、サーボとロボットの一貫生産を行うロボット第5工場の本格稼働を開始しました。

さらに、製品のラインアップ強化として、i³-Mechatronicsコンセプトを実現するコントローラとインバータの新製品をリリースしたほか、重労働の代替に対応したロボットの販売も開始しています。

『新メカトロニクス応用領域の事業拡大』については、6月に開催されましたFOOMA JAPAN 2026に出展し、自律型AIロボット「MOTOMAN NEXT」を活用した食品生産工程の自動化や生産性の向上を訴求しました。

また、ライフサイエンス・医薬品市場向けに、高度な衛生管理下での薬品や小物容器の搬送を自動化するロボットの販売を開始しました。

それでは、次の15ページにお進みください。

実際の導入事例

耐火被覆吹付の自動化

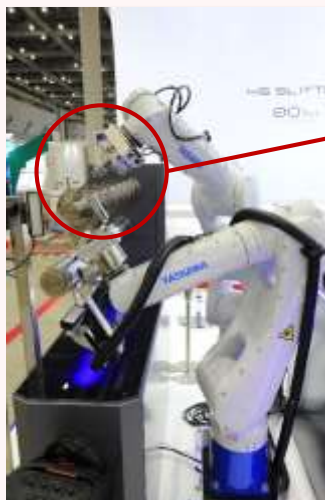
株式会社 大林組 様



過酷作業の自動化と施工品質の安定化に挑戦。
AIで梁位置を認識し吹付軌道を自律補正する
ことで現場ごとの差異に対応できる、
耐火被覆吹付ロボットの実現を目指す。

スリッター※1の完全自動化

株式会社 西村製作所 様



ACU※2が刃物位置や作業状態を
認識し、段替え作業を
自律的に補正・実行。
人手に依存していた工程の

省人化を進め、
完全自動スリッター開発を目指す。

※1 シート状の長尺ロールを任意の幅で切断し
再度ロール状に巻き取る加工機械
※2 Autonomous Control Unit

YASKAWA

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

15

こちらのページでは、自律型AIロボット「MOTOMAN NEXT」の導入事例をご紹介します。

左側は、大林組さまと協業で進めている取組みです。

柱や梁を断熱材で覆う耐火被覆吹付作業は、
高所かつ粉じん作業を伴う過酷な環境で行われます。

人手不足や作業者による品質のばらつきが課題となる中、
「MOTOMAN NEXT」を活用し、現場ごとの差異に対応した作業の自動化と
施工品質の安定化を目指しています。

右側は、西村製作所さまと協業で進めている取組みです。

スリッターの完全自動化は、刃先の消耗具合の診断と、
それに基づいた柔軟な作業が必要であるため、従来のロボットでは実現困難とされてきました。

今回、「MOTOMAN NEXT」に標準搭載されたアプリケーションにより
刃物の位置や状態を認識し、段替え作業を自律的に補正・実行することで、
人手に依存していた工程の省人化を図り、完全自動化を目指しています。

それでは、次の16ページにお進みください。

【トピック2】データセンタ関連投資による需要拡大

- ✓ AI・データセンタ関連投資の拡大が、建屋・サーバー冷却・半導体・電子部品など複数アプリケーションに波及し、需要拡大を通じた成長をけん引
- ✓ 全主力事業においてデータセンタ関連需要を着実に取り込み、事業拡大に寄与

適用領域

①データセンタの建屋・サーバー冷却



用途

- ・空調設備（HVAC）
- ・サーバー冷却システム（液冷・空冷）

当社製品適用

- ・インバータ
- ・マトリクスコンバータ（U1000）

需要動向

- ・米国における建屋空調向け需要が好調
- ・サーバー冷却の水循環ポンプに適用が拡大（米州）

②半導体



用途

- ・半導体製造装置
- ・真空ポンプ

当社製品適用

- ・ロボット（クリーン・真空など）
- ・ACサーボモータ
- ・インバータ

需要動向

- ・AI関連需要の拡大に伴う半導体増産を受け、装置メーカー向けに搬送ロボット・ACサーボモータ需要が増加（主に米州、日本、韓国、台湾）
- ・設備向けとして、真空ポンプなどの需要が増加（日本・中国・韓国・台湾）

③電子部品



用途

- ・チップマウンター

当社製品適用

- ・サーボモータ

需要動向

- ・データセンタ向けを最終需要とする電子部品需要が拡大（主に日本）
- ・サーバー向け基板実装用にチップマウンター関連需要が増加（主に中国・日本）

④その他

サーバーラック筐体の溶接(ロボット)向けの需要なども増加

YASKAWA

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

16

こちらのページでは、データセンタ関連投資による需要の拡大についてご説明します。

AIの普及を背景に、世界的にデータセンタへの投資が拡大しており、当社製品への需要も幅広い領域で拡大しています。

まず、「①データセンタの建屋・サーバー冷却」の分野です。

データセンタにおいて重要な役割を担う空調設備やサーバー冷却システム向けにインバータやマトリクスコンバータが採用されています。特に、米国での需要が好調に推移しています。

次に、「②半導体」の分野です。

AI関連需要の拡大に伴う半導体の増産を受けて、半導体製造装置メーカー向けの搬送ロボットやサーボモータの需要が増加しています。また、真空ポンプなどの設備向けのインバータ需要も、日本、中国、韓国、台湾などで拡大しています。

次に、「③電子部品」の分野です。

データセンタ向けサーバーの需要拡大を背景に電子部品の需要が増加しており、チップマウンター向けのサーボモータ需要が伸長しています。

さらに、「④その他」の分野においても、データセンタのサーバーラック筐体の製造工程において、ロボット溶接の需要が拡大しています。

それでは、18ページにお進みください。

2. 2026年度 通期 連結業績見通し

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

・ 2026年度業績予想については、足元の受注は堅調に推移しているものの、経営基盤の強化を目的とした基幹システム移行後の定着状況を慎重に見極めるため、現時点では2026年4月10日公表の予想を据え置き

	2026年度 見通し	2025年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上収益	5,800億円	5,421億円	+379億円	+7.0%
営業利益	600億円	473億円	+127億円	+26.8%
税引前利益	650億円	496億円	+154億円	+31.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	470億円	352億円	+118億円	+33.4%

2026年度 通期の業績見通しです。

足元の受注は堅調に推移しているものの、経営基盤の強化を目的とした基幹システム移行後の定着状況を慎重に見極めるため、現時点では2026年4月10日公表の予想を据え置きます。

なお、26年度第2四半期から第4四半期までの期間における平均為替レートについては、4月10日に公表しました想定レートから変更なく、ドルは145円、ユーロは170円、人民元は20.5円、韓国ウォンは0.105円といたします。

また、最後になりますが、配当につきましては、期初発表時の内容から変更はありません。

中間配当は1株につき36円、期末配当についても1株につき36円を予定しています。

これにより、年間の配当は、前年度から4円の増配となる72円を予定しています。

以上をもちまして、2026年度 第1四半期の業績概要の説明を終わります。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

3. 参考資料

設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (計画)
設備投資額	406.7	570.4	580.0
減価償却費	208.0	210.8	260.0
研究開発投資	237.7	240.1	240.0

為替レート

(単位：円)

	2024年度 (実績)			2025年度 (実績)			2026年度 (想定)		
	1Q	上期	通期	1Q	上期	通期	1Q(実績)	上期	通期
対 米ドル	153.2	153.7	152.7	146.2	146.2	149.9	158.8	151.9	148.5
対 ユーロ	165.5	166.6	164.0	162.0	166.0	172.8	184.9	177.4	173.7
対 元	21.16	21.23	21.12	20.13	20.26	21.01	23.19	21.85	21.17
対 ウォン	0.113	0.113	0.111	0.102	0.104	0.105	0.107	0.106	0.105

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安 (2026年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	15.9	3.8
ユーロ	6.7	1.0
元	12.1	3.5
ウォン	3.7	1.5

B / S 構造の推移

2026年2月28日時点

➢ 親会社所有者帰属持分比率

➢ 親会社所有者帰属持分

➢ 有利子負債

(現金及び現金同等物)

➢ D/Eレシオ

(ネットD/Eレシオ)

➢ 棚卸資産

(回転月数)

➢ ROE

➢ ROIC

59.5%

4,835億円

1,249億円

612億円

0.26

0.13

2,108億円

(4.5ヶ月)

7.7%

6.9%

➡

2026年5月31日時点

➢ 親会社所有者帰属持分比率

➢ 親会社所有者帰属持分

➢ 有利子負債

(現金及び現金同等物)

➢ D/Eレシオ

(ネットD/Eレシオ)

➢ 棚卸資産

(回転月数)

58.8%

4,851億円

1,212億円

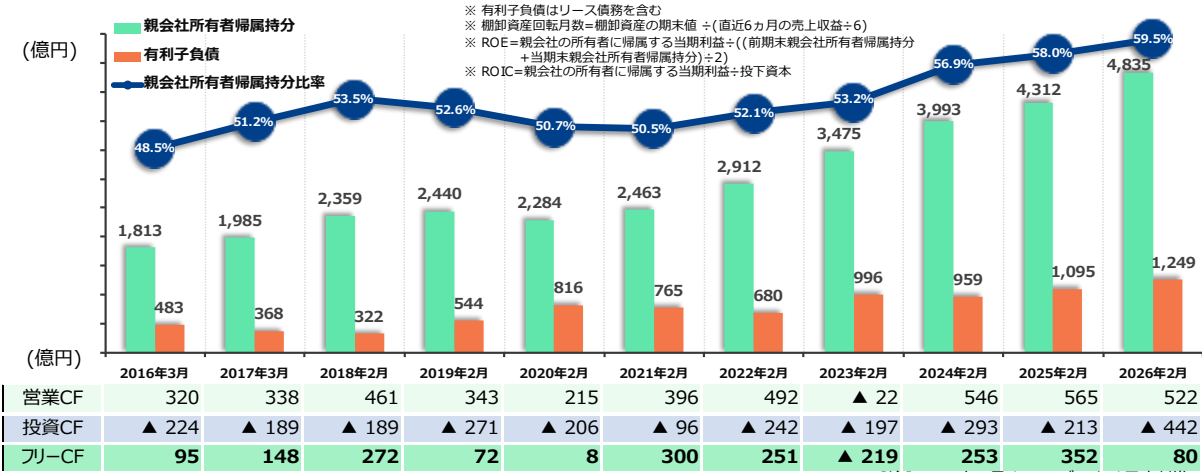
576億円

0.25

0.13

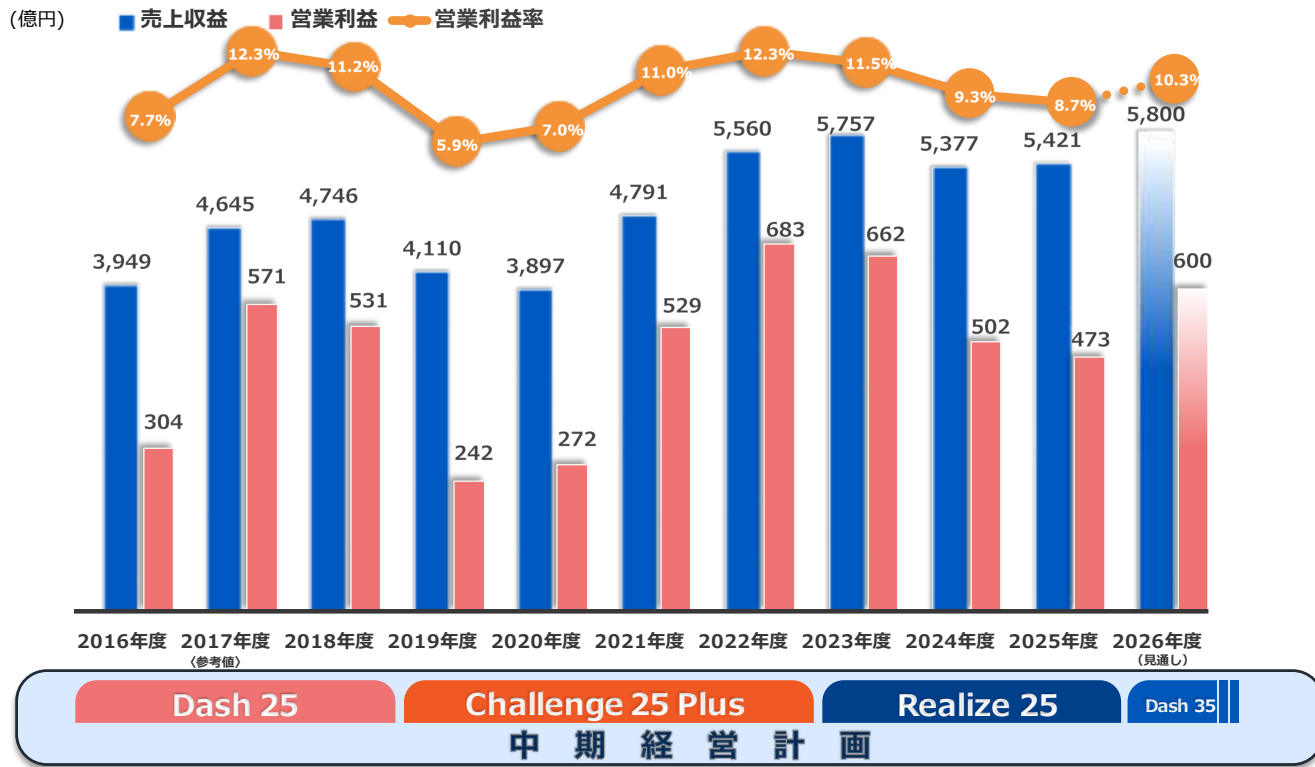
2,152億円

(4.5ヶ月)



<スキップ>

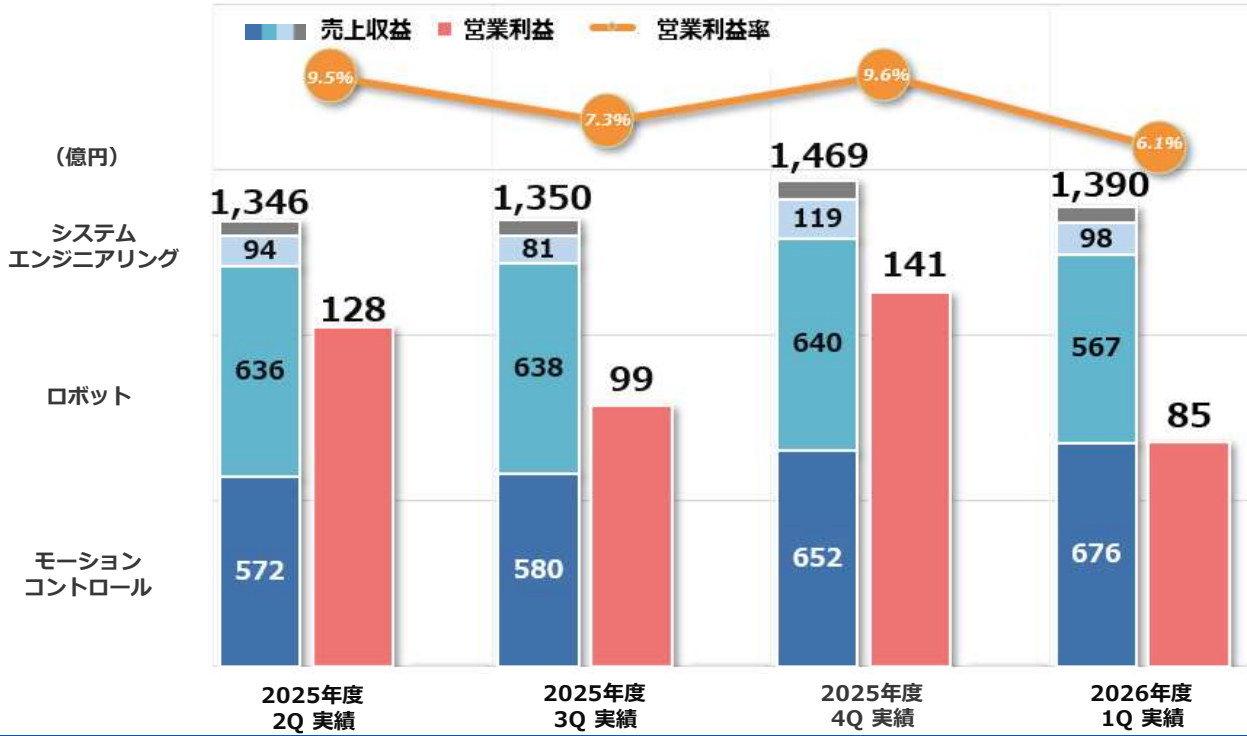
売上収益・営業利益推移（2016年度～2026年度見通し）



[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

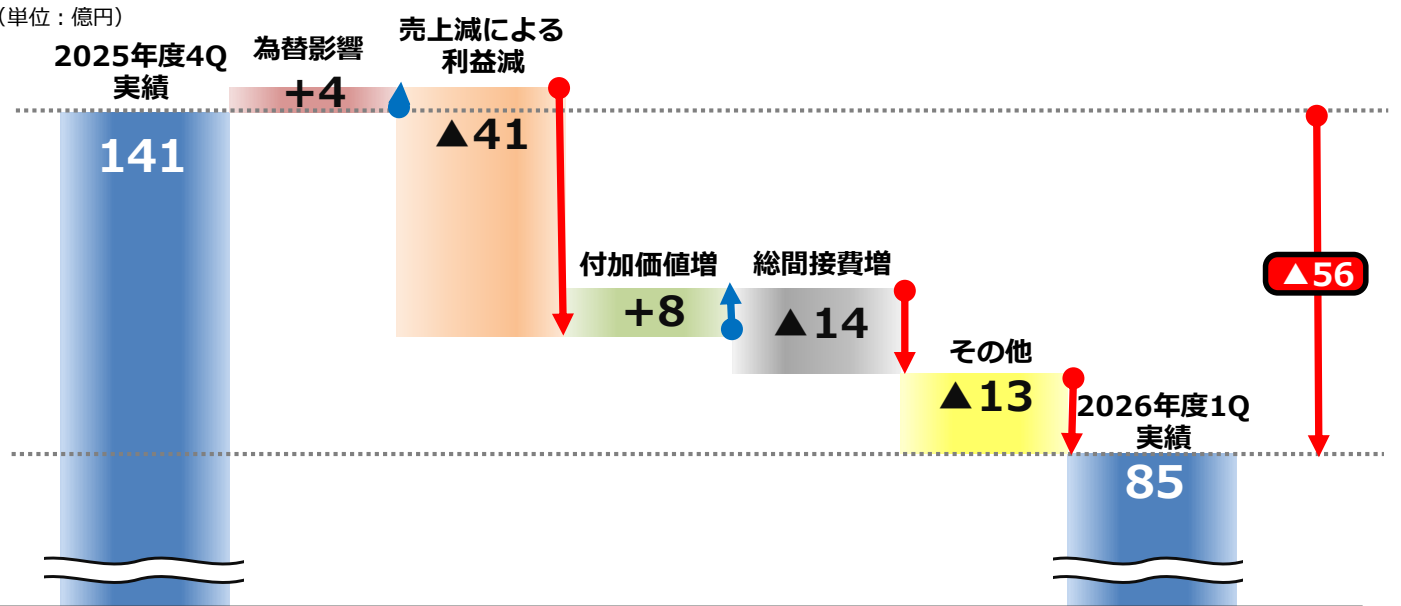
<スキップ>

売上収益・営業利益 四半期推移



<スキップ>

直近四半期営業利益増減要因分析（2025年度 4Q → 2026年度 1Q）

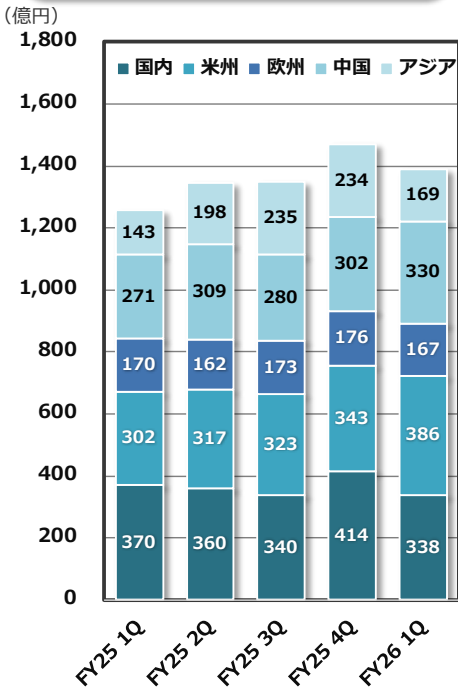


内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 2	+ 8	▲ 4	▲ 9	▲ 1
ロボット	+ 2	▲ 37	+ 8	▲ 3	▲ 11
システムエンジニアリング	▲ 0	▲ 11	+ 7	+ 0	+ 0
その他	+ 0	▲ 1	▲ 3	▲ 2	▲ 2

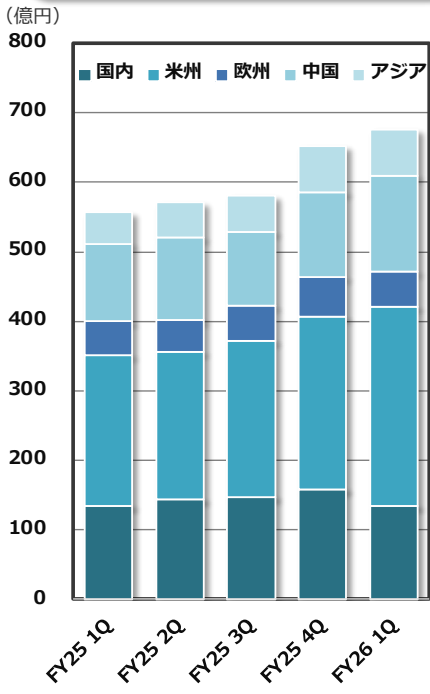
<スキップ>

売上収益 四半期推移

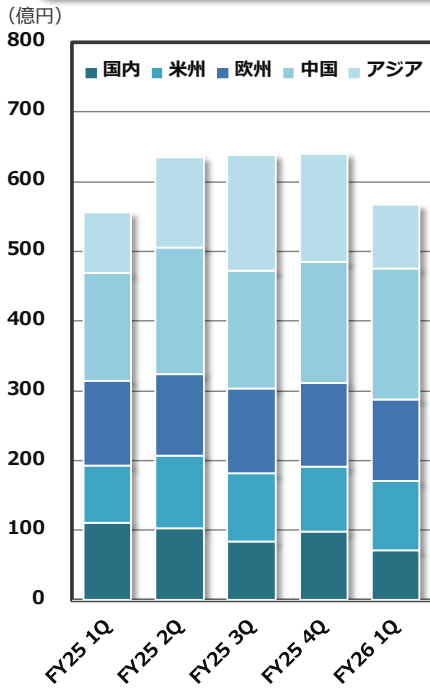
全 社



モーションコントロール

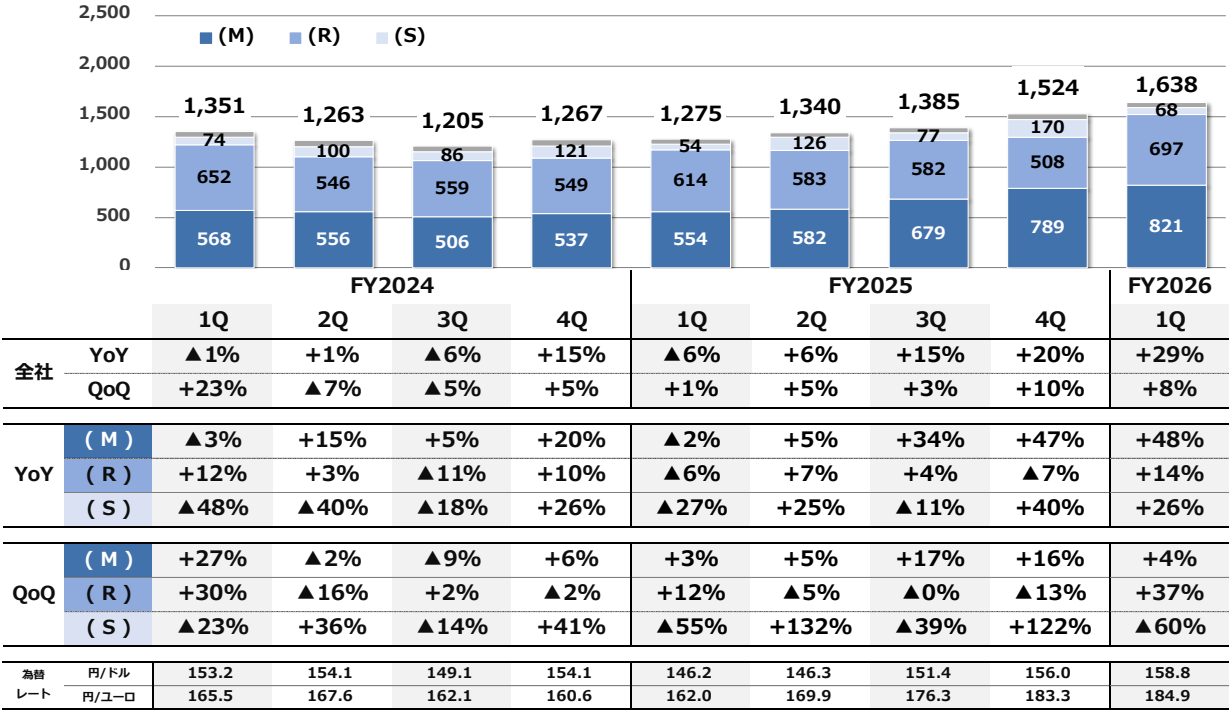


ロ ボ ッ ト



四半期受注推移（セグメント別）※為替は期中平均レートを使用

(億円)



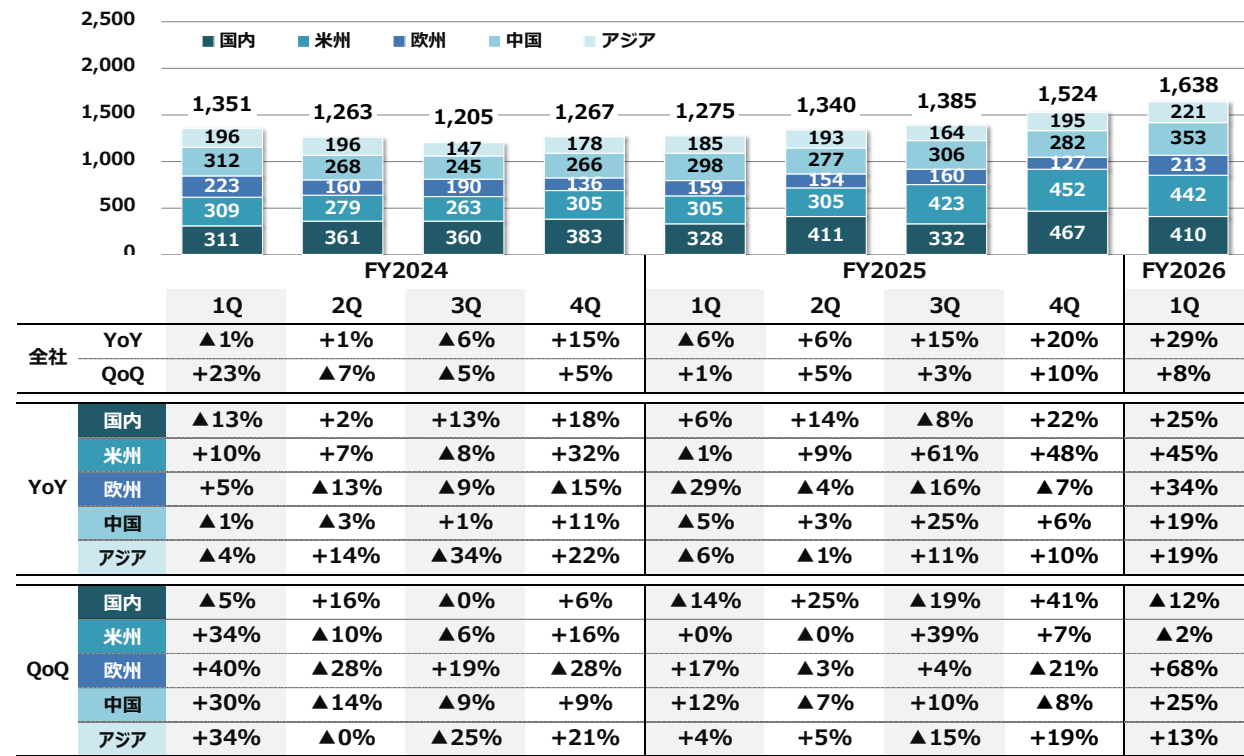
[注] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

<スキップ>

四半期受注推移（所在地別）

※為替は期中平均レートを使用

(億円)



<スキップ>

売上収益における為替影響

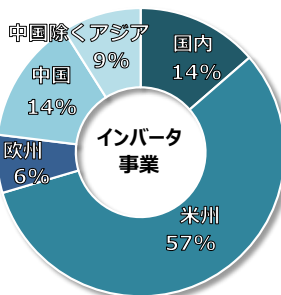
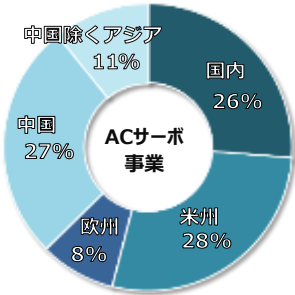
	前年同期比	
	2026年度 1Q	2026年度 見通し
（単位：億円）		
全社	+103	▲12
モーションコントロール	+50	▲10
ロボット	+51	▲0
システムエンジニアリング	+1	▲1
その他	+1	+0

連結受注 事業別・所在地別増減率

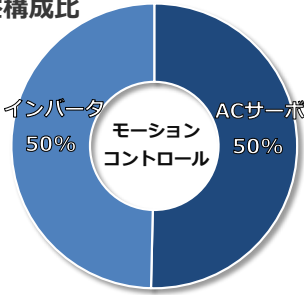
FY2026 1Q 受注		モーションコントロール		ロボット
		ACサーボ	インバータ	
全社	YoY	+65%	+31%	+14%
	QoQ	+10%	▲3%	+37%
YoY	国内	+60%	+27%	▲1%
	米州	+117%	+43%	▲1%
	欧州	▲2%	▲15%	+55%
	中国	+25%	+10%	+19%
	アジア	+152%	+58%	▲4%
QoQ	国内	+18%	+21%	+5%
	米州	+12%	▲9%	▲6%
	欧州	▲11%	+5%	+118%
	中国	+11%	▲21%	+51%
	アジア	▲1%	+25%	+33%

モーションコントロールセグメント
2026年度1Q 売上収益構成比

所在地別売上収益構成比



事業別売上収益構成比



YASKAWA

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>